

平成22年度 尚志館高等学校 学校自己評価表

基本方針	校訓『不屈不撓』の精神をバックボーンに、豊かな資質を養い、国や社会に貢献できる人間を育成する。
教育目標	志を常に高く持ち、自ら学ぶ態度を養う。よき友を作り、生きる力を身につけ、国や社会に貢献できる人間を育成する。
重点努力目標	①将来、役に立つ人材を目指す生徒指導。②尚志館に来てよかったと思われる進路指導。③勉強や部活動など、やりたいことを思い切りやれる学校。

評価方法(5段階評価)	5. とても良い 4. 良い 3. ふつう 2. 改善の余地あり 1. 改善が必要
-------------	---

1 学校経営 全職員が共通の理念に立った学校経営の参画における教育的考課の評価

評価項目	具体項目	目 標	具体的方策	評価	成果と課題
学校教育目標と経営方針	学校教育目標の具現化	教職員間の共通理解のもとに、教育目標の実現を図る。	課題や生徒の実態をふまえた目標を設定し、具現化に努める。	3.3	学科により生徒の実態にあまりにも差があり、共通の目標・課題が設定しづらい。しかし、担任や科主任との連携により、それぞれに応じた成果はあがっている。しかし、より多くの情報交換が必要である。率先した朝の清掃等により、教育環境づくりに貢献できた。

2 教育活動全般における計画的、組織的な教育的成果の評価

評価項目	具体項目	目 標	具体的方策	評価	成果と課題
学級経営	学級目標の具現化	学級目標に沿った学級作りを行う	学校目標や学級実態に応じた学級経営・ホームルーム活動を行う。	3.2	大学進学を目指し、クラス全体のレベルアップが必要である。進路達成に向けた取り組み、国家試験対策など目標を掲げ意識付けを行えた。
教科指導	わかる授業展開と工夫改善	創意工夫された学習指導の実践	シラバスを作成し、学習目的や学習方法を生徒に説明する。 効果的な授業を行うために研究や研修を深める。	3.3	年間計画に沿って計画通りに実施できた。シラバスを活用しながら、担当者間で連携を図りながら、授業展開に努めた。 一部の教科で習熟度別授業を導入し、成果が上がった。今後も継続していきたい。できる範囲で継続していきたい。
特別活動	生徒会活動・学校行事の充実	生徒会活動の充実 学校行事の充実	生徒の自主性・自発性を促し、積極的に生徒会活動に参加させる。 効果的な学校行事になるよう、常に見直しを行い、活動内容を工夫する。	3.3	生徒会は年々自主的・自発的な取り組みができるようになってきている。文化祭は生徒会主導で内容のある立派なもののができた。 体育的行事の体育大会・持久走大会は立案から運営に至るまで、全職員の協力のもと所期の目的を達成できた。この全職員で取り組む伝統は、今後も継承していきたい。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	生徒各自に尚志館生としての意識を持たせ、自信と誇りの持てる生徒に育てる。	基本的な生活の確立を図る 交通ルールの遵守など、安全教育の徹底	3.2	挨拶や服装容疑の徹底を中心に指導してきたが、まだ不十分な面がある。その場での指導を心掛け、生徒の自覚を促していきたい。生徒指導はまずクラスが基本であるが、クラスにより指導に温度差が生じてきている。その解消には共通理解のための研修が必要である。単車の事故が後を絶たなかった。継続的な指導が必要である。
進路指導	進路指導の充実	系統的・計画的な進路指導	進路実現のために、個別指導や進路相談・三者面談などを計画的に行う。 生徒の能力や適性に応じた進学指導 生徒の能力や適性に応じた就職指導	3.5	国公立大・私大ともに多様化する入試形式を常に研究しておく必要がある。教育相談により、目標設定・方向性の設定に対し、適切な情報を与えることができた。生徒の能力に応じて、個別に指導してきた結果、生徒に変化が見られるようになった。進路に対する早めの意識付けができた。
保健衛生	心と身体の健康に留意させ学習環境を整える	保健指導 体育指導 防火・防災 環境衛生	心と身体の健康を適切に管理する能力を育てる 運動技能を高め、体力向上を図る 防災についての意識の高揚を図る 学習にふさわしい環境を整える	3.4	性教育について、1年生は担任が指導したが、なかなか難しかった。年度途中からであったが、不登校や精神的に不安定な生徒に対して、カウンセラーを配置したことにより、担任の負担が減った。また、専門的な対応により幾人かの生徒を救うことができ、退学や・休学を減らすことができた。
広 報	広報	定員確保のための広報活動の推進	入学案内・パンフレットの作成 中高連絡会・体験入学の実施 中学校訪問・学習塾訪問・説明会の実施 ホームページ・Eメールの管理 PTA・中学生の訪問受け入れ	3.2	中学生向けの資料・案内や中学校の先生、そして塾などへの効果的な広報活動ができた。このことが、入学生の増加につながったと思われる。全職員が生徒募集に対する使命感を持つために、常に共通理解を図る必要がある。入試業務など反省会を持つ必要がある。23年度の定員確保は確実であるが、関係中学校の3年生が少なくなる24年度が勝負。
部活動	部活動の活性化	部活動への参加を奨励し、活発な活動を行う	部活動への積極的な参加を奨励し、学習との両立を図る 活動を通して、コミュニケーション力を高め、たくましい人間に育てる	3.2	各部活動ともよく努力して、各部がそれぞれの大会で活躍している。それにより、生徒の心身の向上はもちろん、学校の広報活動にも貢献している。ただ、入部率が低いということと、部員の少ない部活のモチベーションの維持が難しいといった問題もある。今後の課題である。
総合評価				3.3	